

抄 録

ワ氏反應ニ用フル乳兒ノ採血法

Steinhardt: Deutsche Medizinische Wochenschrift, den 4, August 1922, Nr. 31.

乳兒ノ肘部其他身體各部ノ皮下靜脈ハ細キタメ採血不可能ナル事多シ。故ニ他ノ方法即チ大顛門ヲ經テ矢狀竇ヨリ採血シ又ハ腫部ノ亂切、吸角ノ使用等ノ方法アレド、スタインハルト氏ハ數年來ノ經驗ニヨリテ頸部皮下靜脈ヨリ採血ノ容易ナル事ヲ知レリト。其方法ハ乳兒ヲ側臥位トシ頭部ヲ机角ヨリ下垂セシメ十分ニ一側ノ頸部ヲ緊張セシム。然ル時ハ頸部ノ下垂ト乳兒號叫トノ爲メ、頸部皮下靜脈ノ怒張充實ス可ク、此際靜脈ノ最モ膨隆セル部分ヨリ注射針ニヨリ採血ス。其際注射針ハ成可クタキヲ要ス。若シ針管内ガ血液凝固等ニヨリ閉塞スレバ、針ヲ拔出セバ血液ハ點滴狀又ハ線狀ニ流出スルニヨリ之ヲ容器中ニ收容シ得ルコトアリ。採血ノ後ハ輕ク綿球ニテ壓スレバ易ク止血ス。尙ホ小兒ニ對スル靜脈内療法ハ技

術困難ノ爲メ廣ク行ハレザルモ此ノ方ニヨレバ廣ク應用セラルルナラン。(佐藤抄)

扁桃腺炎後ノ腹膜炎

Riedel: Deutsch. Mediz. Wochenschr. August 11, 1922, Nr. 32.

扁桃腺炎後ノ腹膜炎ハシーリングニ於テ發表サレテヨリ余モ又興味アル二例ニ就キテ報告スル動機ヲ得タリ。第一例ハ四十八歳ノ下婢ニシテ入院(一九一九、一二、一)ノ前日過度ニ濕潤セル結果扁桃腺炎ニ罹患セルモノナリ。入院時ノ所見トシテ咽頭及ビ扁桃腺ハ高度ニ充血腫脹シ濃厚ナル汚穢黃褐色ノ苔ニテ被ハレ、頸部及ビ頂部淋巴腺モ極度ニ腫脹シ疼痛アリ、熱發四〇度ニ及ベリ。他ノ臟器所見ハ正常ニシテ塗沫標本及ビ培養ニ於テ「デフテリー」菌ヲ證明セズ。四日ニ至リ咽頭ノ苔ト腫脹ハ殆ド完全ニ消退シ、體溫モ下降セリ。然ルニ六日ニ及ビ再ビ三九・八度ニ上昇シ脈搏細小、腹部膨滿、高度ノ吃逆及ビ呼吸困難ヲ現ハスニ至レリ、但扁桃腺及ビ咽頭所見ハ全ク消失セリ。次デ八日ニ至リ腹腔内ニ液體滲出ヲ證

明シ得、腹膜炎性顔貌ヲナシ九日ニ至リ昏瞶ニ陥リ終ニ死亡セリ。死體解剖所見トシテ扁桃腺ハ通常大ニシテ栓塞ヲ有セズ。心臟及肺臟ニ著變ナク右肋膜腔ニ二—三c.c.ノ膿汁アリ腹腔内ニハ大量ノ黄色濃厚ナル膿汁ト纖維素ヲ滿タシ體壁及ビ内臟腹膜ハ混濁セリ。膿汁ニハ連鎖狀球菌ヲ證明セリ。

第二例トシテ此ノ少女ノ發病ヨリ三日ニシテ同家ノ二十七歳ノ婦女扁桃腺炎ニ罹患セリ。六日ニ至リ臥床ニ及ビ七日ニシテ腰痛アリ、次第ニ増悪シ九日ニ及ビテ嘔吐、吃逆、刻々ニ迫ル呼吸困難アリ終ニ昏瞶トナリ夜ニ及ビテ死亡セリ。

上述二例ニ於テ口峽炎ノ結果トシテ腹膜炎ヲ招來セシ事疑ナシ。細菌ノ毒力モ傳染ニ依リテ強烈トナレルヲ見ル。

以上二例ニ於テ病原菌ガ腹膜ニ對シ特別ナル親和力ヲ有セルモノト假定セザレバ扁桃腺炎後ニ腹膜炎ヲ招來セシ事實ヲ説明シ能ハズ。(三宅抄)

痔核ノ「アルコホル」注射療法

Hoss; Mediz. Klinik, Juni 11, 1922 (Ref. in The Journ. of Amer. Med. Associat. August 12).

ボアス氏ハ六年來、痔核ニ對シ、九十六%ノ「アルコホル」注射ヲ行ヒ、優秀ナル治療法ナリトノ確信ヲ得タリ。「アルコホル」使用量ニ就テハ、大ナル痔核ニ於テモ、甚ダ少量ニテ足り、通例一〇—二〇滴(〇・五—一・〇cc)以上ハ注射セズ。但、痔核ヲ穿刺スル際注射針ノ先端ニ「アルコホル」ナキ事ヲ要ス。然ラザレバ菲薄ナル血管壁ハ壞疽ニ陥ルコトアルベシト。尙ホ總テ注射後、痔核ノ無菌性、血栓形成ヲ促ガス爲メニ、四、五日間就床スルヲ要シ、此間流動食ノミヲ與へ、次ニ鹽類下劑及ビ油劑灌腸ヲ併用ス。スクシテ氏ハ、此注射療法ヲ行ヘル百三十例中、再發ヲ見タルハ單ニ六例ニシテ、他ハ悉ク全治シ、唯此中二例ニ於テ注射ヲ二回及ビ三回反覆セシニ過ギズト。(狩野抄)

生殖器出血ニ對スルX線脾放射

Volmerhäuser u. Eufinger; Münch. Mediz. Wochenschr., Juli 21, 1922, Nr. 29.

從來持續性ノ生殖器出血ニ對シテハ主トシテ内服藥ノ探索及ビ改善ニノミ腐心シ居タルモ此等ノ藥劑ハ一般ニ效果少ナク殊ニ其出血ニシテ附屬器ノ變化、原因不明ノ月經過多、又ハ他ノ有力ナル加療ヲ許サザル有熱性流産ニ因セル場合ニ於テ特ニ然リトス。

茲ニ於テ、脾放射ガ止血作用ヲ亢進セシムルテフステファン氏ノ試驗ニ基キ上述ノ出血ニ際シテ脾放射ヲ試ミタリ、其方法ハ打診上ノ脾位置ニ焦點皮膚間距離二十三仙米ニテ $\times\infty$ ノ放射野ヲ選ビ「クーリツヂ」管ヲ以テ先ヅ二分一「ヘッド」ヲ放射セリ。

此放射ノ機轉ニ就テ精細ナル血液對照試驗ヲ行ヒタルモ其血液像ハ何等定則的表象ヲ表サズ然レドモ此脾放射ハ實際ニ於テ生殖器出血ニ對シ臨牀上優秀ナル效果アルヲ以テ大ニ推賞スベキ價値アルモノト信ズ。

是迄種々ナル保存的療法ニテ無效ニ終リタル附屬器疾患十四例有熱性流産四例腫瘍ニヨル月經過多二例、破瓜期出血二例ニ應用シタルニ何レモ良果ヲ收ムルヲ得タリ内十九例ハ三分一「ヘッド」ニテ速ニ止血シ、他ノ三例ハ二三日後再ビ倍量(三分二「ヘッド」)ノ放射ヲ行ヒ止血セ

リ、之恐ラク個人的素因ニ起因スルモノナラン。
要スルニ脾放射ハ現今迄有力ナル療法ナカリシ生殖器出血ニ對シ一新機軸ヲ開キタルモノト云ツヘシ。

(柴抄)